



## 海の水はどうしてしょっぱいの

### 海の水の中に塩分がとけているから

海の水をなめてみると、とてもしょっぱいことや、海水浴で、水から上がってしばらくすると、かわいた体に小さい塩のつぶが、たくさんつくことなどから、海の水には塩分がたくさんとけていることがわかります。

世界の海の水から塩分を取りのぞき、その塩分を地球上に、どこも同じ高さになるように積み重ねたとすると、塩分の厚さは87.7メートルにもなります。海の水にふくまれている塩分量が、いかに多いかがわかります。

### 塩分は地球の岩石の成分とはたらきあってできた

今から約46億年前、地球ができたころには、びわく星とよばれる、たくさんの小さなわく星が、地球にしょうとつしていました。しょうとつのエネルギーは、熱に変わり、地球の表面の温度を、1000以上にしたのです。そのため、岩石はとけて、表面は溶岩でおおわれました。

溶岩からは、水蒸気や二酸化炭素、塩素などをふくむガスが大量に発生し、地球の大気をつくりました。地球がだんだん冷えてくると、水蒸気は厚い雲になり、大量の雨を降らせ、海をつくりました。

水蒸気以外のガスは、雨とともに海の水にとけこみました。そして、海の水にとけた物には、岩石をとかすはたらきがありました。海のまわりや海底の岩石の成分(その物をつくりあげている物質)と、この岩石をとかす成分がはたらきあって、海の水に塩分ができたといわれています。(監修・国司 真)

